

論文審査の結果の要旨

報告番号	乙 第 3193 号	氏 名	大石 竜
論文審査担当者	主査 佐藤 久弥 教授		
	副査 鈴木 憲雄 教授		
	副査 西中 直也 教授		
論文題名：膠原病に伴う間質性肺炎に対するポリミキシン B 固定化線維カラムを用いた直接血液灌流法の有効性と積極的導入基準の検討			
掲載雑誌名(巻・号・頁・掲載年)：昭和学士会雑誌 第 83 巻第 1 号 2023 年 2 月発刊に掲載予定			
論文審査の結果の要旨			
膠原病関連間質性肺炎 (CVD-IP) に対して、ポリミキシン B 固定化線維カラムを用いた直接血液灌流法 (PMX-DHP) の有用性と実施のタイミングを後方視的に追究した研究である。対象症例は、12 例であり PMX-DHP を実施した CVD-IP の急性増悪症例で生存群と非生存群において、基礎疾患、生命予後、動脈血酸素分圧/吸入酸素濃度比 (P/F ratio)、その他を評価項目として比較している。本研究の症例は、皮膚筋炎 (DM) 5 例、関節リウマチ (RA) 5 例、他 2 例の基礎疾患を対象としていた。28 日後の生存例は 5 例、非生存例は 7 例であった (生存率 41.7%)。基礎疾患別の生存率は DM で 80.0%、RA で 20.0% であった。P/F ratio は、PMX-DHP によりすべての症例において上昇した。さらに、PMX-DHP 実施前 P/F ratio は、DM で 320.0mmHg (199.1-364.4)、非 DM で 90.1mmHg (58.9-140.8) と DM で有意に高値であった。上記より、CVD-IP の急性増悪に対する PMX-DHP は、肺線維化の進行を防ぎ酸化能の改善に寄与した可能性が考えられた。全例で P/F ratio が改善したことから、重症度を問わず PMX-DHP の有効性が示唆された。したがって、CVD-IP 症例において早期から PMX-DHP を導入することで、生命予後改善の可能性が期待できるとされ、極めて有用なことを示していることから本論文は本学大学院学位論文(博士)審査基準を満たしており、学位論文に値すると判断した。			

(主査が記載)